

■ 社会への取り組み

社会性目標と実績

CSR方針と体制

お客様のために

従業員、取引先様のために

株主様、地域社会のために

企業市民としての取り組み

社会貢献活動の考え方・指針

住文化向上

住まいづくりに関する教室を開催

次世代育成

各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動

環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施

「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

環境配慮

「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

「グリーンファースト」推進による埼玉県での環境保全活動

障がい者の自立支援

SELP（セルプ）製品の販売協力、ノベルティー採用

障害者週間協賛行事への参画

NPO・NGO等との協働

「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

キッズデザイン協議会

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

チャリティー・ボランティア活動

災害義援金

チャリティーフリーマーケットの実施

「こどもの日チャリティーイベント」への参画

社会貢献活動社長表彰

対外活動、社外からの評価

「エコ・ファーストの約束」

「エコ・ファーストの約束」と進捗

「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加

社外からの主な評価

SRIインデックスへの組み入れ

2014年度 社外からの主な評価

住環境の質の向上を目指した団体活動及び提言活動

自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

東日本大震災からの復興に向けて

広島土砂災害からの復旧・復興

「防災未来工場化計画」の取り組み

CSR方針と体制

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成 △ … 達成できなかったが目標に近付いた ✕ … 目標に向けた改善ができなかった

CSR推進体制と浸透

Plan	2014年度目標	集合研修、e-ラーニングを継続し、CSR意識の向上を図る
Do	2014年度の活動内容	e-ラーニングを活用し、従業員一人ひとりのCSR活動の実践につなげた
Check	評価	○
Action	2015年度目標	集合研修、e-ラーニングを継続し、CSR意識の向上を図る
関連する取り組み		企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 コーポレートガバナンス・内部統制システム CSR委員会とCSR推進体制 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

Plan	2014年度目標	事業所ごとの目標と実績を活用し、PDCAサイクルを加速。 取り組みレベルをさらに向上させる
Do	2014年度の活動内容	CSRへの取り組みの各分野における目標と実績を検証し、 改善活動を推進することにより事業所ごとのレベル差を改善できた
Check	評価	○
Action	2015年度目標	事業所ごとの目標と実績を活用し、PDCAサイクルを加速。 取り組みレベルをさらに向上させる
関連する取り組み		企業理念・CSR方針 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係 コーポレートガバナンス・内部統制システム CSR委員会とCSR推進体制 コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

コンプライアンス・マネジメント

Plan	2014年度目標	各支店のマネジメント状況を検証。各種ツールの運用で、従業員全員のコンプライアンス意識を一層向上させる
Do	2014年度の活動内容	全従業員から「企業倫理要項」等を遵守する旨の誓約書を取得。「ガバナンス意識調査」を実施し、マネジメントスタイル気付きのツールとして実践的に活用
Check	評価	○
Action	2015年度目標	各支店のマネジメント状況を検証。各種ツールの運用により、従業員全員のコンプライアンス意識を一層向上させる
関連する取り組み		コーポレートガバナンス・内部統制システム コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

Plan	2014年度目標	事業所責任者の率先垂範により、労務管理を含めた職場環境マネジメントに注力
Do	2014年度の活動内容	総務部長会などで事例を共有。働きやすい職場づくりに努め、36協定遵守を図った
Check	評価	○
Action	2015年度目標	事業所責任者の率先垂範による自由闊達な職場風土づくりに注力
関連する取り組み		コーポレートガバナンス・内部統制システム コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

Plan	2014年度目標	内部統制システムの運用徹底、リスクマネジメントの強化に引き続き取り組む
Do	2014年度の活動内容	新しい業務改善システムを適正に運用
Check	評価	○
Action	2015年度目標	内部統制システムの運用徹底、リスクマネジメントを強化
関連する取り組み		コーポレートガバナンス・内部統制システム コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

社会とのコミュニケーション

Plan	2014年度目標	サステナブルな暮らしについて、 多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施
Do	2014年度の活動内容	「ゼロエミッションセンター」「住ムフムラボ」「防災未来工場(東北工場)」などでサステナブルな暮らしについて、多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施
Check	評価	○
Action	2015年度目標	サステナブルな暮らしについて、 多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施
関連する取り組み		ステークホルダーコミュニケーション指針 「防災未来工場化計画」の取り組み

【関連項目】

- > [社会性目標と実績 お客様のために](#)
- > [社会性目標と実績 従業員、取引先様のために](#)
- > [社会性目標と実績 株主様、地域社会のために](#)

お客様のために

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成 △ … 達成できなかったが目標に近付いた × … 目標に向けた改善ができなかった

お客様満足の上

Plan	2014年度目標	オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の上を目指す
Do	2014年度の活動内容	お客様アンケートで満足度95.4%。「Netオーナーズクラブ きずな」は月2回のコンテンツ更新で情報の鮮度を向上。オーナー様向け情報誌の定期発行とアンケートの実施、分析、改善
Check	評価	○
Action	2015年度目標	オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の上を目指す
関連する取り組み		ステークホルダーコミュニケーション指針

安全・安心・健康・快適な住まいづくり

Plan	2014年度目標	「いつもいまが快適」をテーマに、あらゆる世代を通じて、誰もが使いやすく心地よい「スマートユニバーサルデザイン」の住まいづくりを推進
Do	2014年度の活動内容	「第8回キッズデザイン賞」で優秀賞 経済産業大臣賞1点、優秀賞 消費者担当大臣賞1点、奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞1点を含む6点が受賞
Check	評価	○
Action	2015年度目標	「いつもいまが快適」をテーマに、あらゆる世代を通じて、誰もが使いやすく心地よい「スマートUD」の住まいづくりを推進
関連する取り組み		「弁当の日」応援プロジェクトに参画 2014年度 社外からの主な評価

Plan	2014年度目標	オリジナル制震システム「シーカス」を積極的に推進し、暮らしの快適性向上を目指す
Do	2014年度の活動内容	「シーカス」搭載率89% (前年度比2ポイント増)
Check	評価	○
Action	2015年度目標	引き続き積極的に提案
関連する取り組み		CSV戦略④住宅の長寿命化とアフターサポートの充実 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント

Plan	2014年度目標	体験型学習施設を有効活用し、 安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポートする
Do	2014年度の活動内容	来場者数「納得工房」2万7362人、「住まいの夢工場」8万303人
Check	評価	○
Action	2015年度目標	体験型学習施設を有効活用し、 安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポート
関連する取り組み		ステークホルダーコミュニケーション指針 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」

Plan	2014年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、 さらなる満足の上を目指す
Do	2014年度の活動内容	管理室数54万5757室、一括借上入居率96.4%。 入居者向け総合サービス「MASTクラブ」会員は約52万人
Check	評価	○
Action	2015年度目標	賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、 さらなる満足の上を目指す
関連する取り組み		賃貸住宅における入居者満足の上

コミュニティの形成と地域文化の継承

Plan	2014年度目標	「まちなみ参観日」「隣人祭り」の開催地を増やし、 地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポートする
Do	2014年度の活動内容	年2回開催の「まちなみ参観日」を戸建住宅568会場、 マンション17会場で実施。「隣人祭り」を49会場で開催
Check	評価	○
Action	2015年度目標	地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート
関連する取り組み		安全・安心・快適なまちなみ・コミュニティを体感する「まちなみ参観日」 既存住宅団地のコミュニティ活性化を目指す取り組み

【関連項目】

- > [社会性目標と実績 CSR方針と体制](#)
- > [社会性目標と実績 従業員、取引先様のために](#)
- > [社会性目標と実績 株主様、地域社会のために](#)

従業員、取引先様のために

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成 △ … 達成できなかったが目標に近付いた ✕ … 目標に向けた改善ができなかった

従業員とともに

Plan	2014年度目標	「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう職務面談、評価制度の改定等の施策を実行
Do	2014年度の活動内容	従業員のやりがい、納得度を高めるべく、評価制度を一部改定。 企業理念に基づく活力あふれる組織風土がさらに強化されつつある
Check	評価	○
Action	2015年度目標	「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
関連する取り組み		CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価

Plan	2014年度目標	女性が成果を出しながら、生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
Do	2014年度の活動内容	2015年、東証・経産省「なでしこ銘柄」に住宅・建設業界初となる2度目の選定。女性営業・技術職で優秀な業績を挙げながら、結婚、出産、育児を経験した従業員が徐々に増加。女性管理職も増加し、グループで101人となった(女性管理職比率2.26%)
Check	評価	○
Action	2015年度目標	女性が成果を出しながら、生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
関連する取り組み		CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価

Plan	2014年度目標	社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を進める。 障がい者雇用は喫緊の課題として取り組む
Do	2014年度の活動内容	職群転換制度により16人が職群転換。退職者復職登録制度を活用し、これまでに17人が復職。障がい者雇用率は2.08%となり、法定雇用率を達成
Check	評価	○
Action	2015年度目標	社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を進める
関連する取り組み		CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価

Plan	2014年度目標	労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
Do	2014年度の活動内容	次世代育成へ積極的に取り組む企業として認定マーク「くるみん」を取得(4度目)。育児休業取得者は361人、短時間勤務制度の利用者は400人といずれも増加。また研修により、働き方の変革や業務改善による生産性の向上を促進。女性の育児休業取得後の復職率は93%
Check	評価	○
Action	2015年度目標	労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
関連する取り組み		CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価

Plan	2014年度目標	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により 労働安全衛生を一層推進する
Do	2014年度の活動内容	業務災害54件(前年度比7件増)、通勤災害23件(13件増)
Check	評価	×
Action	2015年度目標	各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により 労働安全衛生を一層推進する
関連する取り組み		CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 特定の背景、目指す姿、活動方針、リスクマネジメント CSV戦略⑤ダイバーシティの推進 これまでの取り組み・評価

協力工事店・取引先の皆様とともに

Plan	2014年度目標	取引先様との健全な関係を継続するため、グループ会社を含めて、「企業倫理要項」等のルールを徹底する
Do	2014年度の活動内容	内部統制チェック項目の一つに下請取引に関するチェック項目を設けており、公正な取引が実施されていることを確認。方針説明会を年2回開催
Check	評価	○
Action	2015年度目標	取引先様との健全な関係を継続するため、「企業倫理要項」等のルールを徹底
関連する取り組み		ステークホルダーコミュニケーション指針 コーポレートガバナンス・内部統制システム コンプライアンス推進活動 内部通報システムと公益通報者の保護 コンプライアンス推進とリスクマネジメント体制

【関連項目】

- > [社会性目標と実績 CSR方針と体制](#)
- > [社会性目標と実績 お客様のために](#)
- > [社会性目標と実績 株主様、地域社会のために](#)

株主様、地域社会のために

【自己評価の基準について】

○ … 目標を達成 △ … 達成できなかったが目標に近付いた × … 目標に向けた改善ができなかった

株主・投資家の皆様とともに

Plan	2014年度目標	中長期にわたる高い利益配分の実現と経営の健全性を維持するため、中期的な平均配当性向40%を確保。中間配当25円、期末配当25円の通期50円を予定
Do	2014年度の活動内容	配当性向は38.2%を確保。通期の1株当たり配当金は7円増配し、50円。株主様を対象とした「住まいの夢工場」見学会や投資家様対象のセミナー等を実施
Check	評価	○
Action	2015年度目標	中長期にわたる高い利益配分の実現と経営の健全性を維持するため、中期的な平均配当性向40%、自己株式取得20%で総還元性向60%を確保。配当は通期54円を予定
関連する取り組み		株主様・投資家様とのコミュニケーション

住文化向上・教育支援

Plan	2014年度目標	地域に開かれた企業として、自社の施設やノウハウを生かして、住文化の向上に注力する
Do	2014年度の活動内容	「すまい塾」475人受講。「Webすまい塾」申込186件。産学連携と大学間の交流を図る。「住空間ecoデザインコンペティション」は全国45大学から177作品の応募
Check	評価	○
Action	2015年度目標	地域に開かれた企業として、自社の施設やノウハウを生かして、住文化の向上に注力する

関連する取り組み	「弁当の日」応援プロジェクトに参画 「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 住まいづくりに関する教室を開催 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」
----------	--

Plan	2014年度目標	体験型学習施設などを利用した教育貢献活動をさらに充実させ、授業での講師派遣や職場体験の受け入れを拡大する
Do	2014年度の活動内容	学生の見学者数:「納得工房」「住まいの夢工場」で計4609人。「新・里山」「希望の壁」で地域の子どもたちを対象に農作業体験を実施。「いえコロジー」セミナー、「Dr.フォレストからの手紙」「Dr.ユニバーサルデザイン授業」などの教育プログラムを継続実施
Check	評価	○
Action	2015年度目標	体験型学習施設などを利用した教育貢献活動のさらなる充実
関連する取り組み		「弁当の日」応援プロジェクトに参画 「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 住まいづくりに関する教室を開催 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

地域社会への貢献

Plan	2014年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実により全体的な取り組みレベルの底上げを図る
Do	2014年度の活動内容	SELP製品をノベルティーとして2万4869個採用。障害者週間協賛行事を行政、経済団体、NPO、他企業と共催。和歌山県「企業の森」でのボランティア活動を継続実施。ボランティア休職制度をこれまでに7人が利用
Check	評価	○
Action	2015年度目標	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
関連する取り組み		「弁当の日」応援プロジェクトに参画 「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルプ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参画 住まいづくりに関する教室を開催 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

Plan	2014年度目標	「積水ハウスマッチングプログラム」第9回はNPOなど27団体へ2130万円を助成予定。従業員の活動理解と参加を促進
Do	2014年度の活動内容	「こども基金」「環境基金」の第9回は27団体へ2130万円を助成。第10回は118プロジェクトが応募。東日本大震災遺児を経済支援する「もも・かき育英会基金」に1300万円を寄付(4回目)。会員数は189人増加し、3263人となった
Check	評価	○
Action	2015年度目標	「こども基金」「環境基金」の第10回助成として、25団体に2278万円を助成。従業員の活動理解と参加を促進

関連する取り組み	「弁当の日」応援プロジェクトに参加 「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参加 住まいづくりに関する教室を開催 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」
----------	--

Plan	2014年度目標	公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」を通じて、神戸市における国際的・文化的コミュニティづくりに資する活動を助成。33件の活動に1925万円を助成予定
Do	2014年度の活動内容	33件の活動に1925万円を助成。これまでの助成金額累計は4億429万円
Check	評価	○
Action	2015年度目標	2015年度は、34件の活動に1959万円を助成予定
関連する取り組み	「弁当の日」応援プロジェクトに参加 「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催 環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施 従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」 SELP(セルフ)製品の販売協力、ノベルティー採用 障害者週間協賛行事への参加 住まいづくりに関する教室を開催 R&Dの拠点「総合住宅研究所」 参加・体験型施設「住まいの夢工場」、「住ムフムラボ」 「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」	

【関連項目】

- > [社会性目標と実績 CSR方針と体制](#)
- > [社会性目標と実績 お客様のために](#)
- > [社会性目標と実績 従業員、取引先様のために](#)

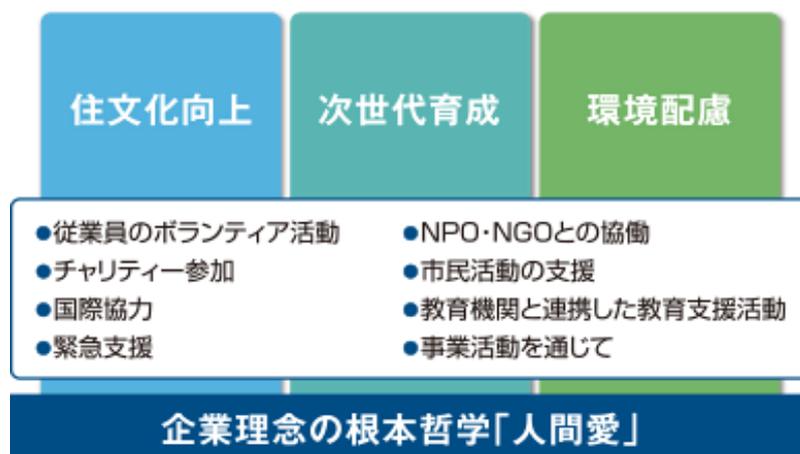
社会貢献活動の考え方・指針

本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けています。

「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。

社会貢献活動の考え方



【関連項目】

- > [住文化向上](#)
- > [次世代育成](#)
- > [環境配慮](#)
- > [障がい者の自立支援](#)
- > [NPO・NGO等との協働](#)
- > [従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」](#)
- > [チャリティー・義援金・ボランティア](#)
- > [社会貢献活動社長表彰](#)

住まいづくりに関する教室を開催

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に「すまい塾」を開設し、「こだわり講座」と「公開講座」へ参加いただいています。また、NPO「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」に、総合住宅研究所の企画を提供し、活動を継続支援しています。

体験や実例見学ができる「すまい塾」を開催

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、「すまい塾」を開設しています。

「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「わかる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。「すまい塾」には「こだわり講座」と「公開講座」の二つがあり、どなたでも受講していただくことができます。

「こだわり講座(有料)」では、半年間同じ参加者が継続的に講座を受講することで、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を幅広く身につけるとともに、家族の暮らし方や夢を整理し、こだわりの住まいづくりを見つけていただくことを目的としています。講師は各分野の専門家が担当してします。

「公開講座(有料)」は、総合住宅研究所内にある大ホールで広く参加者を募り、開講している市民講座。住まいと暮らしにかかわりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社内外から招き、講演形式で実施しています。また、過去の講義録はホームページからご覧いただくこともできます。

2015年1月までに、「こだわり講座」には784人、「公開講座」には1万6547人の方が参加しています。



当社社員による「公開講座」の様子

【関連項目】

- > [「すまい塾」ホームページ \(受講をお申し込みいただくことができます\)](#) 
- > [「すまい塾 こだわり講座」ホームページ](#) 
- > [「すまい塾 公開講座」ホームページ](#) 
- > [「すまい塾 過去の公開講座・誌上公開講座」ホームページ \(講義録\) をご覧いただくことができます](#) 

インターネットによる「Webすまい塾」の全国展開

納得工房で開催している「こだわり講座」をアレンジした「すまい塾」を全国の事業所で展開しています。

さらに、好きな時に、繰り返し、自分のペースで学んでいただくことができるインターネットを活用した「Webすまい塾」もご用意しています。2014年度は186件のお申し込みをいただき、開設(2008年4月)から2015年1月までの累計申し込み数が2,825件となりました。「Webすまい塾」は、住まいづくりの楽しさを多くの皆様に知っていただくことを目指して、全6レッスンと3つのスペシャルレッスンから構成される充実したカリキュラムで、登録・受講料は無料です。

【関連項目】

- > [「Webすまい塾 修了生インタビュー」ホームページ](#) 

西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫

当社は、建築学者で京都大学名誉教授でもあった 西山卯三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料 約10万点を保管するNPO法人「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」(京都府木津川市、以下「西山文庫」)に、総合住宅研究所の一面を提供し、活動を支援しています。

わが国の大学では、優秀な研究者による研究資料(図書、図録、図面、写真、メモ等)は、当該研究者が研究室を引退すると大学図書館や学部学科はおろか、当該研究室でさえ、それらを継承し活用するという仕組みが十分とはいえません。そのため、その時代でしか入手することができない一級資料や原資料などは、世代交代によって大量に失われているのが現実です。西山氏は自らの力で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の暮らしを取材して、膨大な資料を収集し、自筆のスケッチや写真に残してこられました。こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料約10万点を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者に提供し育てるということが「西山文庫」の使命であり、毎年さまざまな成果を上げている、日本でも稀有な事例であるため、当社は当初から活動を支援しています。



積水ハウス(株)総合住宅研究所内に設置
「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」

市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム 関西21」に協力

2002年から開催している一般公開の「すまい・まちづくりフォーラム 関西21」への協賛も「西山文庫」への支援の一つで、2014年度までに33回、本社のある梅田スカイビルや総合住宅研究所などで開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム 関西21」の開催趣旨は住環境にかかわる今日の話題や歴史・文化的意味などについて検証し、21世紀の住まい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現をテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その道のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。講演者にとっても西山文庫で話すことは知的刺激に富んだ機会と評価されています。



2014年春のフォーラム 会場風景

各地で「学びの場」を提供し、展開する教育貢献活動

「住まいづくり」や「庭づくり」という当社の本業を生かし、小学生から大学生まで幅広い層の教育機関と連携して、自然体験学習をはじめとする環境に関わる学習や、設計インテリアに関係する講義や実習の受け入れなど、さまざまな“学びの場”を提供しています。

総合住宅研究所での教育貢献活動

当社総合住宅研究所(京都府木津川市)内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者と共に体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は70万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使う「納得工房」の大きな特長を生かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても活用されています。宿泊施設があるため遠方からの参加も可能です。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を疑似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※ GARO:「G:ガリバー…寸法変化」「A:(不思議の国の)アリス…環境変化」「RO:ロボット…身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老(がろう)＝我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験(GARO体験)することで、健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。



GARO体験の様子



建物の構造についても学びます

体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国6カ所に設置し、学生の体験学習を受け入れています。2014年度は1618人の学生を受け入れました。

「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの一つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識が向上するなどの波及効果もあります。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと思います。

【関連項目】

> [「住まいの夢工場」ホームページ](#) 

新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

2006年7月に本社がある新梅田シティ(大阪市北区)の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を取り入れつくられた約8000m²からなる「新・里山」では、2007年より毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携し体験学習を実施しています。2014年度は地元の小学生ら66人が、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機や唐箕(とうみ)を使った脱穀作業など機械に頼らない昔ながらの米づくりを体験。また、幼稚園児61人はサツマイモの植え付けとイモ掘りを体験しました。さまざまな農作業体験を通して食とものづくり、自然共生の大切さを学ぶ場として活用されています。

また、オフィスワーカーによるボランティア活動も活発に行われています。新梅田シティで働くオフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では、2014年度に20回の活動を実施、延べ213人が参加しました。年間を通じて勤務前に活動する「朝活」や、昼休み時間内に活動する「昼活」に加え、茶摘み体験や夏野菜の試食会なども活動の一部に取り入れました。



中大淀幼稚園児による
サツマイモ掘り(10月)



大淀小学校5年生による
田植え(6月)



新梅田シティ里山くらぶによる
大根の種まき作業(9月)

「希望の壁」親子イベントを開催

「新・里山」と同様に、新梅田シティ内にある「希望の壁」でも地元の方々、子どもたちに愛着を持ってもらうことを目的に、年間を通じてイベントを実施しています。この「希望の壁」を世界最大のバタフライ・ウォールにしようという想いを込め、子どもたちの手によって、蝶が卵を産める柑橘系植物やキャベツ苗を「新・里山」に植え、蝶が蜜を吸えるよう花苗を「希望の壁」に植樹しています。

2014年度は計5回、102組299人(子:172人、親:127人)の親子が参加、回を追うごとにリピーターの数も増え、人気イベントの一つとなっています。



キャベツ苗の植付(4月)



「希望の壁」での自然見学会(5月)



「希望の壁」の植物を材料にした
Xmasリースづくり(12月)

【関連項目】

- > [「緑の都市賞」を受賞した「新・里山」・「希望の壁」](#)
- > [「新梅田シティ 新・里山」ホームページ](#) 

環境教育プログラムや職場体験、出張授業の実施

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、当社は「エコ・ファースト企業」の3つの約束の取り組みをテーマとして、体験型学習プログラムを実施しています。また、教育機関と連携して、職場体験の受け入れや出張授業を実施しています。

地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ キャプテンアースの「いえコロジー」セミナー

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしのかかわりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから“理科離れ”を解消していくプログラムです。社員自らが「地球防衛軍からやって来た“キャプテンアース”」という名のキャラクターを名乗り、授業の講師役を務めます。

45分コースの例 <暮らしの省エネ・断熱性能について>

■ 講義 (10分)

概要、趣旨説明

パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例をあげ「エコ」or「エコじゃない」について考える。



■ 実験 (25分)

断熱性能の実験① (10分)

放射温度計の使い方を説明。
ポットのお湯と表面温度を測り、「断熱性能」について考える。

断熱性能の実験② (15分)

住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。



■まとめ(10分)

- 赤外線サーモグラフィカメラを使って、部材の熱の伝わり方を確認。
- 暮らしの中で「断熱性能」を生かした例を紹介。
- 実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- キャプテンアースとの約束
今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束(発表)する。



お問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーション部CSR室

TEL:06-6440-3440 E-mail:csr@sekisuihouse.co.jp

生態系や在来種・外来種問題を考える「Dr.フォレストからの手紙」

校庭などの身近な自然をテーマに、緑の専門家(Dr.フォレスト)から出されたミッションをクリアする中で、生態系や在来種・外来種問題を考え、そこで得た新しい知識や視点・考え方をこれからの行動につなげることを目的としたプログラムです。2007年には、第2回キッズデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)(主催:NPO法人 キッズデザイン協議会)を受賞しています。教師が自由にアレンジすることのできる教材提供(教材データ式のダウンロード)と緑の専門家(Dr.フォレスト)が学校にやってくる出張授業(講師派遣)の2種類をご用意しています。また、本プログラムをベースにした教員研修(教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣)も実施しています。



	教材提供	出張授業	教員研修
	“体験思考型”環境教育プログラムを無償でダウンロードできます。	緑の専門家が“体験思考型”環境教育の出張授業を無償で実施いたします。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施いたします。
内容	授業プログラム教材一式提供	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 (クラス単位での実施) ※ 教材のアレンジにより中学校での実施も可能	小学校4～6年生 (クラス単位または合同での実施)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方 ■ 各教育委員会が取りまとめる現役の教員
詳細	“Dr.フォレスト”からの手紙 	“Dr.フォレスト”と校庭に出よう! 	“Dr.フォレスト”による教員研修プログラム 

お問い合わせ先

環境推進部
TEL:06-6440-3047

資源そのものやゴミ分別の大切さを学ぶ「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」(施設見学版)

ゴミの不法投棄問題等について理解を深めた後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのようなものにリサイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。



お問い合わせ先

関東工場 総務部
TEL:0280-92-1531(施設場所:茨城県古河市)

各地での主な教育貢献活動

事業所名	活動内容
人事部	大阪府下の経験10年次教諭を対象に、納得工房や住ムフムラボの見学、および人事、開発、経営企画、環境推進部等、各セクションの社員による講義を盛り込んだ研修を実施
東関東営業本部	小中学生のキャリア教育(環境教育)派遣講師として、「理想の住まい、安全・安心なまちづくりやハウスメーカーの社会貢献」について講義
千葉シャーメゾン支店	中学生への職場体験として2日間の日程で開催 1日目は現場・展示場・分譲地見学を実施 2日目は設計ソフトを使用しているプレゼン資料の作成を実施
名古屋東支店	体験学習の場として、地元中学生たちが展示場での仕事を体験
愛媛支店	高校生を対象に、インテリアに関する職業講話を実施

「住空間ecoデザインコンペティション」「建築新人戦」を開催

学生と共に住空間デザインを考える産学協働のプロジェクト「住空間ecoデザインコンペティション」、所属する教育機関で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「建築新人戦」の開催に積極的に協力し、建築を志す学生を応援しています。

Real Size Thinking 2014 住空間ecoデザインコンペティション

「Real Size Thinking 2014 住空間ecoデザインコンペティション」は、全国の建築・デザイン系の大学生・大学院生を対象に開催している産学共同コンペです。関西・関東の2ブロックに分かれ、東京大学、神戸大学をはじめとする幹事の先生8人と協賛企業4社(大阪ガス株式会社、クリナップ株式会社、東京ガス株式会社、当社)からなる運営委員会形式で実施し、当社が事務局を務めています。今年は全国45大学から177作品の応募がありました。

本コンペは、公募から最終審査まで半年以上かけて行う大規模なイベントで、期間中にはコメントセッション(計画段階で、審査委員の先生や企業と意見交換し、直接アドバイスを受ける機会)を設けています。また、二次審査は本コンペの最大の特徴であるワークショップ(参加型)形式で行われ、公開プレゼンテーション審査や懇親会では学生同士の交流も図られました。二次審査を通過した優秀8作品(関西4作品、関東4作品)には原寸大モデルの制作権が与えられ、完成した原寸大モデルは11月開催の展示会(関西会場:本町ガーデンシティ、関東会場:新宿パークタワー)で公開されました。

■ 最優秀作品



<関西・最優秀賞>
「家具の中の家の中の部屋」
神戸大学大学院 橋本 阿季さん



<関東・最優秀賞>
「Microclimate Control ～密生させた植物でつくる贅沢なベッドルーム～」
東京都市大学 飯島 広太さん、澤口 花奈さん

建築新人戦

所属する教育機関(大学・短期大学・専門学校・高等専門学校)で取り組んだ設計課題作品を対象に実施するコンテスト「建築新人戦」に当社は2010年から特別協賛しています。10月、一次審査を突破した101作品が梅田スカイビル内の展示会場に展示され、二次審査(公開審査会)を開催し、最優秀新人を決定。上位入賞者はアジア建築新人戦(10月25日・中国大連市)への日本代表として、同世代のアジアの学生達とも競い合いました。「建築新人戦」がこの梅田スカイビルを舞台として、建築を志す若者たちにとって自らの構想や技量そして自身の所属する教育環境を問い直す場として、さらには若きデザイナーの登龍門として、今後も定着するよう応援してまいります。

【関連項目】

- > [「住空間ecoデザインコンペティション」ホームページ](#)
[テーマ、審査委員、スケジュール、過去の受賞作品などをご覧ください](#) 

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

弁当づくりを通じて、子どもの生きる力、感謝の心を育む「弁当の日」の取り組み趣旨に賛同した企業が連携して、その普及展開を応援する「弁当の日」応援プロジェクトが2012年に発足し、当社も参画しています。2014年8月、子どもたち自身がお弁当を作る『「弁当の日」イベント“お弁当づくり”から学ぶ食育』を「住ムフムラボ」で開催し、100名以上の方にご参加いただきました。

「弁当の日」は、子どもの感性、成長をはぐくみます

「弁当の日」の取り組みは、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身で行います。弁当づくりを通じて、「食の大切さ」「作る楽しさ」「作ってもらう感謝の気持ち」を創出し、子どもの感性、成長をはぐくみます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、すでに1400校以上の小中学校で実施されています。

この取り組みを企業が連携して応援し、普及啓発するプロジェクトが2012年から始まり、当社も応援企業として参画しています。取り組み成果が認められ、2014年8月、「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞（優秀賞）を受賞しました。



「お弁当づくり」から学ぶ食育「弁当の日」イベントを開催

2014年8月、グランフロント大阪で住ムフムラボ（第9回）住むコト講座『「お弁当づくり」から学ぶ食育 ～食べ物大切さ、つくる楽しさ、感謝の気持ちを育む「弁当の日」～』を開催しました。

当日は、22人の小学生が弁当づくりにチャレンジ。スタッフに包丁の握り方などを教わりながら、おにぎりや「なすとピーマンのみそ炒め」「ひとくち春巻き」など5種類のおかずを調理し、弁当を仕上げました。

また、別会場では「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏による講演会『「弁当の日」が生み出す『くらしの時間』』を同時開催。保護者をはじめ計90人が参加しました。竹下氏は、料理をせず成長した大学生の食事を例に挙げて、その食生活の乱れに警鐘を鳴らすとともに、人は置かれた環境に適應して生きていくので、子どものころから料理にかかわることで、自分で食べる物を自分で管理できる能力が身につく、友達を驚かせたい、家族を喜ばせたいという気持ちが、つくる楽しさとともに思いやりや感謝の心をはぐくんでいくと語りました。

講演会に参加した方々からは「感動で涙が止まらなかった」「食育が人間形成にこれほど影響しているとは思わなかった」「危ないからと口や手をすぐに出さずに、子どもにもっと台所仕事を任せてみようと思った。そしてでき上がった料理を思い切りほめてあげたい」、弁当づくりに挑戦した子どもたちからは「一人でつくって楽しかった。きれいなナスも食べられた」「家でもお弁当を作ってお父さんやお母さんに喜んでもらいたい」等の感想が寄せられました。



講演会の風景



子どもたちによるお弁当づくりの様子



当社ロゴ入りオリジナル弁当箱



つくった弁当を親子で試食

初めてのお弁当づくり。みんな一生懸命に取り組みます。「弁当の日」応援プロジェクトと当社ロゴ入りのオリジナル弁当箱に出来上がったおかずやおにぎりを詰めました。出来上がったお弁当は、最後に親子で試食しました。

【関連項目】

- > [「弁当の日」イベントの竹下和男氏のご講演録をご覧ください](#) 
- > [「弁当の日」ホームページ](#) 

「企業の森」制度への参加をはじめとする森林保全活動

当社は、2006年度より和歌山県の「企業の森」制度を活用し、「5本の樹」計画を考慮した森林保全活動を毎年春・秋に実施し、延べ1456人がボランティア参加しています。また、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動にも協力しています。

和歌山県「積水ハウスの森」森林保全活動

当社は、「里山」を手本とし、各地の気候風土に適した自生種・在来種を中心とした植栽を通じて、生態系保全につながる「5本の樹」計画による庭づくり・まちづくりを進めています。

このような中、社会貢献活動として和歌山県が実施する「企業の森」制度※1を活用した森林保全活動に2006年より取り組んでいます。世界遺産・熊野古道に近い田辺市中辺路に「積水ハウスの森」と名付けた約2.6ヘクタールに「5本の樹」計画に基づく広葉樹（コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、クヌギ等）を植樹。2006年4月から毎年春・秋の2回、積水ハウスおよびグループ会社従業員、協力工事店の方々ボランティア参加し、中辺路町森林組合の指導の下、植樹（補植）や下草刈りを継続実施しています。また、さまざまなレクリエーションを通じ、地元の方々との交流を図っています。

61人が参加した2014年春は、2013年に続き、「パッチ植栽」※2を実施し、鹿の食害から苗木を守るため、周囲をネットで囲う作業を行いました。68人が参加した秋は、古くなった階段の補修、下草刈り、肥料散布、ネット補修などの作業を実施。2014年度末時点で、17回の活動に延べ1,456人が参加しました。

昨秋の活動では、移動時に使用する2台のバスから排出したCO₂を、東北地方の農場にある木質バイオマスボイラーが排出削減して生み出したCO₂削減の権利（クレジット）を購入して、オフセット※3をしました。



古くなった階段の補修作業



「パッチ植栽」をするための
ネット張り作業

- ※1 企業が地元の森林所有者から土地を借り、植樹や下草刈りに参加することで、手入れが行き届かずに荒れたまま放置されている地域の森林の保全を目指す制度。特に和歌山県では、日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして、県が積極的にコーディネートしている。
- ※2 数種類の樹木の苗木をかたまり（パッチ）として植栽し、樹種の異なるパッチを混ぜて配置し、混交林を造成する植栽方法。
- ※3 CO₂等の温室効果ガスの排出削減努力に対し、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせること。

「東京グリーンシップアクション」八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動

2014年5月と10月の2回にわたり、東京営業本部内8支店（東京北、東京西、東京南、多摩、町田、武蔵野、東京シャーウッド、東京分譲）が合同し、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域および大谷地域の里山保全活動に参加。今回で合計4回となりました。

「東京グリーンシップアクション」とは、東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業とが連携して行う自然環境保全活動です。この地域では、当社が活動に取り組む初の企業となりました。

当日の活動場所は、東京都八王子市北部に位置する4ヘクタールの保全地域で、長年の管理不足によるアズマネザサの繁茂や外来種の侵入などが見られる地域。良好な里山環境を取り戻すため、多様な生き物の生息空間にも配慮しながら、ササの伐採、倒木処理、池づくりを行いました。

ハードな作業でしたが、「またぜひ参加したい」「子どもに体験させたい」という声が参加者から聞かれ、充実した活動となりました。「エコ・ファースト」の約束の一つである「生態系ネットワークの復活」の具体的な取り組みとして、社会のため、未来のため、活動を今後も続けていきます。



保全活動参加者の集合写真



作業の様子

「グリーンファースト」推進による埼玉県での環境保全活動

当社の環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、環境保全に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」に寄付しており、2014年度は1154棟230万8000円を寄付しました。また、植樹、地域産材の活用にも積極的に取り組んでいます。

環境配慮型住宅「グリーンファースト」1棟建築につき2000円を寄付

当社が太陽光発電システムや家庭用燃料電池を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、緑豊かな埼玉を守るため、「森林の保全整備」「身近な緑の保全・創出」「環境教育」の推進に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」に寄付しています。2014年度は1154棟230万8000円を寄付し、5月、埼玉県より「彩の国みどりの基金」の感謝状が授与されました（2010年度以降、累計4696棟、9,392,000円を寄付）。

年度	棟数	寄付金額
2010	774棟	1,548,000円
2011	853棟	1,706,000円
2012	923棟	1,846,000円
2013	992棟	1,984,000円
2014	1154棟	2,308,000円

植樹、地域産材の活用も推進

また、県民が1人1本を植樹する「県民1人1本植樹運動」にも参加し、「5本の樹」計画を通じてお客様に庭への植樹を積極的に提案させていただき、2014年度は4万3840本をエントリーしました。さらに、木造住宅シャーウッドに埼玉県産材である「秩父檜」を構造材の一部に採用する取り組みや、彩の国リバーサポート制度に参加し、河川の美化活動などの取り組みも実施しています（2010年度以降、累計225,289本をエントリー）。

年度	植樹本数
2010	43,528本
2011	52,686本
2012	50,749本
2013	34,486本
2014	43,840本

SELP(セルプ)製品の販売協力、ノベルティー採用

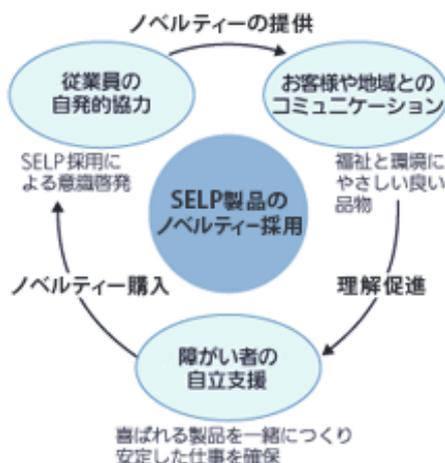
積水ハウスグループは、SELP製品※をノベルティーグッズとして活用することで、障がい者の自立と社会参加を支援しています。2014年度は、全国で計2万4869個を採用しました。

積水ハウスグループでは、住宅メーカーという、あらゆる人々の生活に携わる企業として、また、企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動として、SELP製品をノベルティーグッズとして採用・購入し、障がい者の自立と社会参加を応援しています。

2000年から、認定特定非営利活動法人トウギャザーと協働。全国各地の障がい者福祉施設でつくられた製品を、ノベルティーグッズとして日本全国積水ハウスデー「住まいの参観日」などの各種イベントや、展示場の来場者にお渡ししています。お客様や地域の方々とのコミュニケーションの機会に活用することで、社員の意識啓発にもつながっています。

2014年度は、SELP製品をノベルティーグッズとして全国で計2万4869個採用しました。これまでの採用実績は累計26万個を超えています。

※ 障がい者が社会福祉施設において、リハビリテーションや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことで。「SELP」は英語のSelf-Help(自助自立)からの造語です。また、Support(支援)、Employment(就労)、Living(生活)、Participation(社会参加)の頭文字から成る語ともされています。



SEL製品の実績

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
29,414個	28,452個	35,045個	30,394個	24,869個



定番のエコバッグ。毎年デザインをリニューアルしています



家の形をしたカードホルダー。木製と陶器製があります



東日本大震災被災地の障がい者福祉施設で生産されているキャンドル



積水ハウスの木造住宅「シャーウッド」の端材を活用した鍋敷き

障害者週間協賛行事への参画

2014年11月27日から12月8日まで、梅田スカイビルで恒例の「障害者週間協賛行事」が開催されました。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「障害者週間協賛行事 大阪実行委員会」の事務局を務めています。

障害者基本法では、毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。障害者の福祉について広く国民の関心と理解を深めるとともに、障害者が社会・経済・文化など、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としたものです。この趣旨に賛同し、2005年から、公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会、社会福祉法人大阪ボランティア協会、社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会、認定特定非営利活動法人トゥギャザーが「障害者週間協賛行事 大阪実行委員会」を組織して障害者週間協賛行事を開催しています。2014年度で10回目の開催となり、大阪における恒例行事として定着しています。

行事の中心となるのが「障害者と社会をつなぐシンポジウム」です。障害者の就労と自立、社会参加を目指すことを基軸に、行政・企業・NPO・市民が互いに理念を尊重しながら、協働関係について考える場となっています。今回は発達障害者支援法公布から10年を迎えたことを受け、発達障害者の雇用・就労支援をテーマに実施しました。シンポジウムには行政や企業、福祉関係団体のほか、障害者当事者、親の会の方々、教育関係者、学生など計163人が参加。第1部では各パネリストがそれぞれの立場から現在の活動状況と課題などを具体的事例を交えて紹介し、第2部では発達障害者の雇用・就労支援の実情や課題の解決策について会場全体で議論しました。また、幕間には10周年を記念して、若年性パーキンソン病という難病を抱えながらも歌手活動を続けているロベルト・デ・ロサーノ氏によるミニコンサートを開催しました。

このほか関連行事として「みんなでつくる共生社会パネル展」(大阪府下の小中学生による「障害者週間のポスター」と「心の輪を広げる体験作文」の優秀作品を展示)、「障害者の社会参加を支援する企業展示会」(雇用・製品・サービスなどを通じて障害者の自立と社会参加を支援する企業・NPOなど計28団体の取り組みを紹介)、『「コラボ・アート21」公開展示会」(障害者による芸術作品展。応募総数568点の中から選ばれた優秀作品30点を展示)、「とっておきのさをり展」(全国の障害者施設などから集まった「さをり織り」の作品を展示・販売)、「ふれあいトゥギャザー ～障害者による手づくり作品展・販売会～」(全国の障害者施設でつくられた雑貨・おもちゃ・食品などを展示・販売)を開催。期間中の総来場者は2万8466人に上りました。

障害者と社会をつなぐシンポジウム

障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために～発達障害者支援法公布10年、施策推進の現況と展望～

●基調講演「発達障害：『働く』を支えるコミュニケーションの大切さ」

【講師】

堀内 桂氏(大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか 所長)

●パネルディスカッション「発達障害者の雇用・就労支援の実情と課題解決に向けた取り組み」

【パネリスト】

山科 正寿氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 就労支援専門官)

ヒューバート 真由美氏(立命館大学 学生オフィス・特別ニーズ学生支援室 学生支援コーディネーター・臨床心理士)

窪 貴志氏(株式会社エンカレッジ 代表取締役)

大本 正巳氏(日本パーソナルセンター株式会社 常務取締役)

※もうお一方、株式会社パソナハートフルで就労中の発達障害者当事者に登壇いただきました。

【コーディネーター】

早瀬 昇氏(社会福祉法人 大阪ボランティア協会 常務理事／障害者週間協賛行事 大阪実行委員会 委員長)



シンポジウムで配布する冊子の制作を障害者福祉施設に依頼。会場には手話通訳が入り、点訳の資料も用意しました



「障害者の社会参加を支援する企業展示会」積水ハウスブースでは、障害者配慮住宅の実例、社外との共創による障害者支援の取り組みなどを紹介しました

「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

当社はNPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援しており、建物の建設にあたって約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後も、さまざまなかたちで支援活動を行っています。

小児がんと闘う子どもが、家庭のような環境で治療に専念できる「チャイルド・ケモ・ハウス」の建設に協力

「チャイルド・ケモ・ハウス」は、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスが2006年から建設実現に向けて活動を続けてきた「がんと闘う子どもたちが暮らすケアホーム」で、2013年3月に完成しました。「病院」や「施設」ではなく、「家」に近い環境で、親やきょうだいと暮らしながら治療を行えるメリットがあります。当社はこれまで、従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援してきました。今回の建設にあたっては、約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後もさまざまなかたちで運営に協力しています。

また、「チャイルド・ケモ・ハウス」は2013年8月、「第7回キッズデザイン賞」でキッズデザイン協議会会長賞(奨励賞)を受賞しています。



「チャイルド・ケモ・ハウス」外観

建築概要

【建築地】神戸市中央区港島中町8丁目5番3(ポートアイランド 神戸医療産業都市内)

【建築主】公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金

【総合設計・企画】手塚貴晴、手塚由比、株式会社手塚建築研究所、積水ハウス株式会社

【施工】積水ハウス株式会社

【構造・規模】重量鉄骨造(ベレオ)／地上1階建

【延床面積】1931.50m²



自然光を多く採り入れることができるよう天窓を随所に配置したほか、子ども視点のクリーンな空気環境を実現する当社独自の空気環境配慮仕様「エアキス」を採用しています。また、外構には「3本は鳥のために、2本は蝶のために」をコンセプトに、生物多様性に配慮した「5本の樹」計画を中心に自生種、在来種を中心とした植栽を実施。大きな窓から、樹木に訪れる野鳥や蝶を眺めることで、情操教育にもつながります。

また、2013年10月には、同施設内に子どもたちがリラックスして診療を受けられる「乳幼児診察室」を新たに開設。当社の「キッズでざいん」などの要素を取り入れ、積水ハウスリフォームが施工を担当しました。

「第2回神戸市都市デザイン賞」建築文化賞を受賞

2014年2月9日(日)、「第2回神戸市都市デザイン賞」において、小児がん専門滞在型治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」が「建築文化賞」を受賞しました。小児がんと闘う子どもたちとその家族がふつうに家庭のような環境で暮らせ、その中で治療に専念できるようにという、あたたかい設計配慮などが評価されたものです。

神戸市都市デザイン賞は、神戸らしい魅力ある空間・環境を形成している建築物などを表彰するためのもので、1974年から続いている伝統ある制度です。

社員を通じたさまざまな支援活動

本社部門の社員に呼び掛けて、2013年度より「チャイルド・ケモ・ハウス」の施設見学会を実施しています。毎回、定員を超える社員が参加し、チャイルド・ケモ・ハウス事務局の方のお話を直接聞くとともに、チャリティグッズの購入や施設内外の清掃活動を行いました。

他にも、社員が全員お揃いのチャリティTシャツを着用し、オーナー様対象のイベントを開催したり、売り上げの一部を寄付する自動販売機の設置、グランフロント大阪「住ムフムラボ」内で募金を呼び掛けるコーナーを設置するなど、継続的に支援を行っています。



社員を対象とした「チャイルド・ケモ・ハウス」の見学会、施設の清掃活動



「チャイルド・ケモ・ハウス」のオリジナルTシャツを着てオーナー様対象のイベントを開催(大分支店)



「住ムフムラボ」内の募金コーナー

「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動

当社で導入している福利厚生代行サービス「ベネフィット・ステーション」を通じた寄付活動に取り組んでいます。ベネフィット・ステーションで提供している宿泊施設やショッピングなどをするごとに貯まっていく専用のポイント「ベネポ」を使い、1ベネポ1円相当として、100ベネポ単位で寄付することができます。



「積水ハウスマッチングプログラム」を通じた活動支援

会社と従業員の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、2008年から活動を支援。小児がんのケアに関わる看護師等のスタッフ育成プログラムの作成に向けた研究活動や子どもたちの苦痛を和らげ快適な環境をつくるためのツール開発、社会への啓発活動等をサポートしました。

	助成プログラム	助成金額
2008年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,092,000円
2009年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,280,000円
2011年度	小児がんの子どもと家族を笑顔にするための活動の研究と実施	1,000,000円
2014年度	長期間入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	800,000円

理想的な治療環境づくりの支援に感謝します

2005年6月、「小児がんの子どもと家族にとって、理想の治療環境とは何か」を考えるため、医療関係者と患者さんのご家族が集まったことが、チャイルド・ケモ・ハウスの活動の始まりでした。小児がんの治療は、「入院が長期になる」「抗がん剤の使用による免疫機能の低下で、風邪などの感染症になると命に関わる」という二つの特徴があります。私たちは「がんになっても笑顔で育つ」「理想の病院は家です」というキャッチフレーズのもと、小児がん治療時も日常生活を維持し、子どもが健やかに成長できる環境を提供したいと考えています。

多くの方々からのご寄付と、積水ハウス様、手塚建築研究所様との夢のコラボレーションにより、感染症対策に重要な空調など、最新の技術を採用したこの理想の施設は完成しました。積水ハウス様には、施設建設費の2億円以上のご寄付をはじめ、研究助成などに継続的なご支援をいただき、心より感謝しています。皆様の温かいお気持ちを励みに、これからも新しい医療のかたちを目指していきたいと思えます。



チャイルド・ケモ・クリニック
医院長
楠木 重範さん

【関連項目】

> [「NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス」ホームページ](#)

キッズデザイン協議会

当社は、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的とした「キッズデザイン協議会」の発足当初から、協力、支援を行うと共に、会長には当社会長兼CEOの和田 勇が就任しています。2015年1月現在の会員数は93団体に達しています。

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的として「キッズデザイン協議会」が発足しました。2007年4月には、業界の垣根を超えて、さまざまな企業・団体・自治体関係諸機関が集い、特定非営利活動法人(内閣府認定NPO)として設立されました。当社は、発足当初から、協力、支援を行うとともに、会長には当社会長兼CEOの和田勇が就任しています。2015年1月現在の会員数は93団体に達しています。

キッズデザインとは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長発達につながる社会環境の創出のために、デザインのチカラを役立てようとする考え方であり、活動です。「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」この3つの理念のもと、成り立っています。本取り組みの普及のため、「キッズデザイン賞」が設けられ、2014年までに8回実施されています。2013年からは、最上位の賞として「内閣総理大臣賞」も創設されました。



弊社は第1回から継続して参加し、これまでに多数の「キッズデザイン」製品・サービスを開発しています。2014年度は子どもの安全や成長に配慮した積水ハウスの取り組みのうち6部門6点が「キッズデザイン賞」を受賞し、その中からより優れた作品として上位賞に3点が選ばれました。

「子どもたちの元気プロジェクト」の企画・運営に協力

2014年度は、キッズデザイン協議会会員企業が、東日本大震災被災地で、親子体験ワークショップを実施し、被災地の子どもたちに元気と笑顔を届ける「子どもたちの元気プロジェクト」の企画・運営に協力。3月8日・9日に福島県福島市で開催された「キッズワークショップカーニバル in ふくしま」にも出展しました。その後開催された、「セーフティ・グッズ・フェア with サイエンスアゴラ2014」(東京都、東京都立産業技術研究センター、キッズデザイン協議会との共同主催)にもキッズデザインをメインテーマとした展示を行い、ワークショップによるイベントを開催しました。



「キッズワークショップカーニバル in ふくしま」の様子。

【関連項目】

- > [「NPO法人 キッズデザイン協議会」ホームページ](#)
- > [子どものためのユニバーサルデザイン「コドモイドコロ」](#)
- > [2014年度 社外からの主な評価](#)

社会性目標と実績

企業市民としての取り組み NPO・NGO等との協働

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立し、NPOなど多くの団体を支援しています。

1996年、六甲アイランド(神戸市東灘区)と深いかかわりのある当社とP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立、NPOなど多くの団体の活動を支援しています。

2014年度は33件の活動に1925万円を助成し、これまでの助成金額累計は4億429万円となりました。

■ 基金の仕組み



2014年度助成事業

国際コミュニティづくり事業

在日外国人や新たに来日した外国人に対する日常生活ガイダンス活動、地域住民との交流活動、情報交換活動等。

	受給者氏名	助成対象
1	東灘アートマンス実行委員会	東灘アートマンス
2	特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター	在日外国人保護者と子どもの読み聞かせ促進事業
3	神戸市立小磯記念美術館	RICエコアートカプセル2014ー街中まるごと美術館
4	多文化交流フェスティバル実行委員会	多文化交流フェスティバル
5	RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー(地域図書館)の運営・管理
6	西区連合婦人会	国際交流のタベ なでしこの盆
7	Community House and Information Centre(CHIC)	コミュニティ・ハウス・アンド・インフォメーション・センター
8	特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際交流サロン事業

9	NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK	ラテンアメリカンネットワーク作り
10	被災地学生交流事業会	被災地学生交流事業
11	六甲アイランドを美しい街にする会	六甲アイランドチューリップ祭と関連事業
12	六甲アイランド地域振興会スポーツ振興プロジェクト	「RIC SPORTS EXPO」
13	六甲アイランド地域振興会～震災メモリアルウォーク&ランプロジェクト	「阪神・淡路大震災メモリアル 元気と感動！ウォーク&ラン」
14	六甲アイランド地域振興会～ウェルカムフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドウェルカムフェスティバル2014」
15	六甲アイランド地域振興会手作りコイノボリプロジェクト	「六甲アイランドコイノボリ手染め大会」
16	六甲アイランド地域振興会商業部会六甲アイランドハロウィンフェスティバル&収穫祭プロジェクト	「六甲アイランドハロウィンフェスティバル&収穫祭2014」
17	六甲アイランドルネッサンス委員会	六甲アイランドルネッサンスプロジェクト「International Kids' Day(インターナショナル・キッズ・デイ)」
18	ひょうごラテンコミュニティ	子どものための南米各国のクリスマス体験する会
19	神戸市立六甲アイランド高等学校	地域の特性を活かした国際理解教育とコミュニティづくりの推進
20	あじさいコンサート実行委員会	心の復興 あじさいコンサート ～未来へ～
21	六甲アイランドCITY自治会	「第27回RICサマーイブニングカーニバル」
22	RICふれあい会館	外国人による講演会2013&「住民トーク」
23	多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなでつくる文化と共生社会 (Make the KOBE Globe 編)
24	被災地市民交流会	台湾・東日本・神戸をつなぐ被災地アート・インスタレーション「白屋」
25	アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性への生活情報発信と相談活動および外国人女性のためのガイドブックのポルトガル語版冊子発行
26	W・Sひょうご	外国籍DV被害女性、人身取引被害女性への支援活動
27	特定非営利活動法人 国際教育文化交流協会	東日本大震災被災地復興応援事業－被災留学生・外国人県民の視点 阪神淡路大震災20周年・東日本大震災復興応援チャリティコンサート

文化的な都市環境づくり事業

私有地(個人・法人所有を問わない)でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業(ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等)。

	受給者氏名	助成対象
28	特定非営利活動法人 総合文化推進機構	KOBE ALOHA BREEZE2014
29	RIC音楽工房	第20回みどりの風コンサート

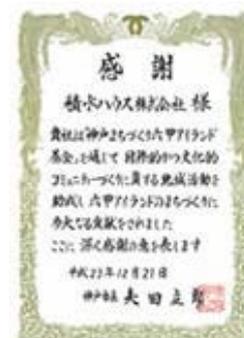
広報・調査・研究活動

国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催および調査、研究活動等。

	受給者氏名	助成対象
30	神戸市東灘防火安全協会	東灘救急フェア2014(仮称)
31	東灘市民放水大会実行委員会	東灘市民放水大会
32	六甲アイランド地域振興会 光の街プロジェクト	「六甲アイランド光の街プロジェクト」
33	六甲アイランドまちづくり協議会	六甲アイランドの街路愛称のさらなる定着化のための 広報活動推進

社外からの評価

2011年12月、基金設立以来の15年間で、地域団体、NPO、ボランティア団体が実施する413件の活動に助成を実施し、国際的・文化的なコミュニティづくりを支援してきた実績が評価され、神戸市より感謝状を授与されました。



これまでの取り組み

[2012年度助成団体](#) 

[2013年度助成団体](#) 

従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度より開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。2014年度は、合計27団体2,130万円の助成を実施しました。

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約3,200人)を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から、希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。当初より「こども基金」と「環境基金」の2つの基金があり、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

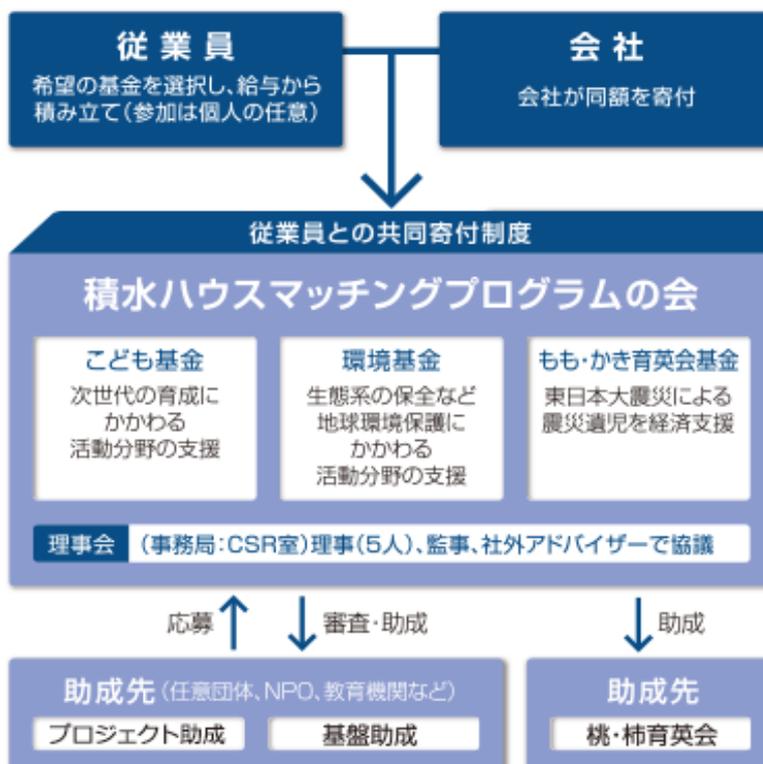
2014年度は、「こども基金」15団体(プロジェクト助成11団体・基盤助成4団体)に1,241万円、「環境基金」12団体(プロジェクト助成8団体・基盤助成4団体)に889万円、合計27団体2,130万円の助成を実施。2006年度からの累計寄付金額は1億円以上になりました。

また、東日本大震災による震災遺児を経済的に支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家 安藤忠雄氏)の趣旨に賛同し、3つ目の基金として2011年に設置した「もも・かき育英会基金」は、2014年度に1,300万円(累計:4,200万円)を寄付しました。「もも・かき育英会基金」では、10年間にわたり、会社と従業員が共同で1億円の支援を予定しています。



「積水ハウスマッチングプログラム」
オリジナルロゴマーク

「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

申請があった個々のプロジェクトに対して助成する「プロジェクト助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施しています。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

また、基盤助成団体に対しては、協働事務局の社会福祉法人 大阪ボランティア協会による「基盤的支援」にかかわるヒアリング、コンサルティングを行っています。

2014年度 助成団体

■ プロジェクト助成(こども基金)・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人アジアキリスト教教育基金(エイセフ) プロジェクト名:バングラデシュ、パタジヨル(Battajore)BDP小学校レンガ校舎建設	100万円
NPO法人アジアチャイルドサポート プロジェクト名:水と電気でする子どもたちの命を支える未来	100万円
認定NPO法人アジア日本相互交流センター・ICAN(アイキャン) プロジェクト名:「子どもの家」を設立し、路上の子どもの夢を叶えるプロジェクト!	100万円
NPO法人アトピッツ地球の子ネットワーク プロジェクト名:エピペン(食物アレルギー緊急時治療用自己注射)を所持する子ども達のための野外活動支援プロジェクト	100万円
NPO法人オアシス プロジェクト名:カンボジア貧困村での新設中学校建設を通し、ソーラーパネルの電力を活用した実験・技術・技能教育の推進プログラムの実現(2年次)ー理科室の建設とその活用	190万円
公益財団法人がんの子どもを守る会 プロジェクト名:小児がん拠点病院等への情報提供事業を通じた患児・家族の支援プログラム	50万円
NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス プロジェクト名:長期入院中の子ども達への教育サポートプログラムの構築と実践	80万円
認定NPO法人チャイルドライン支援センター プロジェクト名:子どもの声を聴いて・伝えて・社会で子育て支援	100万円
NPO法人にじいろクレヨン プロジェクト名:にこにこにじいろひろば	150万円
NPO法人フローレンス プロジェクト名:外で遊べない子どもたちに遊びの場を!「ふくしまインドアパーク郡山」の継続的な運営	100万円
NPO法人ママの働き方応援隊 プロジェクト名:赤ちゃん先生プロジェクト	100万円

■ プロジェクト助成(環境基金)・・・団体からの申請プロジェクトに助成

団体名・プロジェクト名	助成金額
NPO法人気候ネットワーク プロジェクト名:再生可能エネルギー普及養成者講座～地域からエネルギーの未来を考える～	117万円
認定NPO法人共存の森ネットワーク プロジェクト名:「学校林」活用促進のための調査活動と「学校林」小学生サミット(仮称)の開催	100万円
NPO法人Seed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～ プロジェクト名:ベトナムにおける地域の自然と暮らしの知恵を活かした生活改善事業	92万円
NPO法人自然文化国際交流協会 プロジェクト名:教育旅行の小中学生によるチェーンソーを使わない「皮むき間伐」による 森林整備の推進及び間伐材の有効活用	100万円
認定NPO法人生態工房 プロジェクト名:ニホンイシガメが棲む水辺環境の整備と回復	100万円
NPO法人棚田LOVER's プロジェクト名:棚田・生態系保全、エココミュニティ継続プロジェクト～地域全体で子どもたちと成長できる場を～	100万円
NPO法人地球と未来の環境基金 プロジェクト名:山林の保水力・保土力向上と大井川再生を目指した森づくり&地域活性化事業	100万円
NPO法人日本チョウ類保全協会 プロジェクト名:庭のチョウ類調査ウェブサイトの開発	100万円

■ 基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成(上限20万円を助成)

こども基金	環境基金
こども未来フォーラム実行委員会	環境学習サークルみえ
NPO法人スバ・ランカ協会	NPO法人環境教育技術振興会
NPO法人トッカビ	環境マイスター柴波
NPO法人ライフサポートアムリール	NPO法人浜松緑のカーテン応援団

■ これまでの助成実績(プロジェクト助成・基盤助成)の合計金額

	こども基金		環境基金		合計	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2010年度 	875万円	14	908万円	16	1,873万円	30
2011年度 	863万円	15	703万円	14	1,566万円	29
2012年度 	960万円	12	700万円	9	1,660万円	21
2013年度 	1,070万円	10	970万円	12	2,040万円	22
2014年度	1,241万円	11	889万円	12	2,130万円	27

社外からの評価

2010年

第4回キッズデザイン賞(ソーシャルキッズサポート部門)受賞

(主催:NPO法人キッズデザイン協議会)



災害義援金

2014年度は、8月に近畿北部や広島県に甚大な被害をもたらした豪雨災害について義援金を募集。全国の積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から総額742万7300円が集まりました。

積水ハウスグループでは、国内外で大規模な自然災害などが発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が窓口となり、社員に向けて、救援活動や被災地の復興、被災者の生活再建に役立てていただくための災害義援金への協力を呼び掛けています。

2014年8月、停滞前線等による影響で、近畿北部および広島県では記録的な大雨に見舞われ、人的被害や住家損壊・土砂災害・浸水害など、甚大な被害が発生しました。この災害により被災された方々のために義援金を募集したところ、社員および協力工事店の皆様から総額742万7300円が寄せられました。義援金は、特に被害の大きかった京都府福知山市、兵庫県丹波市、広島市の3自治体に寄付しました。

■ 義援金の実績

年度	義援金名	金額	総額
2010年度	「チリ大地震」義援金	2,065,041円	5,516,199円
	「中国青海省地震」義援金	1,504,527円	
	「宮崎県口蹄疫」義援金	1,946,631円	
2011年度	「オーストラリア洪水」義援金	2,104,297円	90,249,438円
	「ニュージーランド地震」義援金	1,981,666円	
	「東日本大震災」義援金	82,989,208円	
	「台風12号および15号」義援金	3,174,267円	
2012年度	「九州北部豪雨」義援金	3,502,942円	3,502,942円
2013年度	「フィリピン台風」義援金	5,135,608円	5,135,608円
2014年度	「近畿北部および広島豪雨」義援金	7,427,300円	7,427,300円

チャリティーフリーマーケットの実施

積水ハウスグループでは、約20年にわたり、関西の事業所合同でチャリティーフリーマーケットを実施。社会課題の解決を担う団体の活動を支援しています。2014年度は売上金と社員からの募金を合わせた総額20万8519円を寄付しました。

積水ハウスグループでは、各地でチャリティーフリーマーケットやチャリティーバザーなどを実施。売上金は、東日本大震災などの被災地復興支援活動を行う団体、各地域において社会課題を解決するための活動を担う団体などに寄付しています。

2014年11月、JR新大阪駅前前で実施された、ノーマライゼーションクラブ※主催のチャリティーフリーマーケットに参加しました。1994年から毎年継続している恒例行事で、関西エリアの全事業所(本社・グループ会社を含む)の社員が、未使用の贈答品など各家庭で活用していない品物を持ち寄り、値付け作業から当日の販売まで協力して行っています。今回は売上金と社員からの募金を合わせた総額20万8519円を社会福祉法人ノーマライゼーション協会※に寄付しました。同協会を通じて高齢者福祉や障がい者の自立支援などに役立てられています。

※ 社会福祉法人ノーマライゼーション協会では、障がい者や高齢者などの社会的弱者と「共に生きる」社会の実現を目指し、仕事や生活などの面で、さまざまな支援を行っています。積水ハウスは1991年から会員になっています。ノーマライゼーションクラブは、同協会の後援組織です。



2014年11月8日、集まった品々を社員有志で販売しました。良い品が安価で手に入ると、地域の方々からも好評をいただいています

「こどもの日チャリティイベント」への参画

2014年5月3～5日、新梅田シティで恒例の「こどもの日チャリティイベント」が開催されました。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、この行事を主催する「世界の子どもを救おう実行委員会」に参加しています。同イベントを通じて、積水ハウスグループとして83万963円を寄付しました。

2004年から、世界の子どもを救おう実行委員会(大阪ユニセフ協会、認定特定非営利活動法人トゥギャザー、梅田スカイビル商店会、大阪新梅田シティライオンズクラブ、積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社)主催により「こどもの日チャリティイベント」を開催しています。人類共通の「宝」である子どもを、自分(自国)の子、他人(他国)の子の区別なく等しく大切に思い、自ら行動することで、世界の子どもたちを救おうという趣旨で実施しており、2014年度で11回目となりました。自然災害や干ばつ、武力紛争などによって、世界の各地で多くの子どもたちが困難に見舞われている実情を知り、その状況を改善するための第一歩として、会場での募金とともに未使用切手・未使用ハガキ・書き損じたハガキ・外国の紙幣やコインを持ち寄って換金し、子どもたちを救う一助とします。

会場には、多彩なステージアトラクションやワークショップのほか、大阪ユニセフ協会による「ワンコインバザー」「こどもチャリティバザー」および世界のこどもの現状を伝える写真パネル展、こども支援団体の活動紹介コーナー、アジアの珍しいおもちゃを通じて異文化を体験するコーナーなどが設けられ、3日間で計1万人が来場しました。

イベント開催に先立ち、積水ハウスグループ社員に呼び掛けたところ、全国から多くの募金および切手・ハガキ・外国通貨などが集まりました。イベント全体の寄付総額は112万4435円(うち積水ハウスグループ83万963円)に上りました。寄付金は大阪ユニセフ協会を通じて、保健や衛生、教育支援など、世界の子どもたちの生命と健やかな成長を守るための資金として役立てられています。



集まった切手・ハガキ・外国通貨などを
大阪ユニセフ協会に寄贈

社会貢献活動社長表彰

積水ハウスグループでは、2005年度から社員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰しています。2014年度は「岩手支店・秋田営業所『巣箱作り体験教室』実行委員会」による「震災復興と環境保全に取り組む『巣箱作り体験教室』」が「社会貢献活動社長特別賞」を受賞しました。

社会貢献活動社長表彰の目的は、社長表彰として顕彰することを通じて、社員の社会貢献活動を奨励し、社会貢献意識の高い企業文化の醸成に寄与しようとするものです。社会への貢献性、地域との密着または社外との協働、活動の継続性、社内外に及ぼす影響（波及性）、社会からの評価などの観点から、その取り組みが特に顕著であるものを「社会貢献活動社長特別賞」として選出・表彰します。表彰を受けた取り組みは、社内誌や社内ホームページ、社内メールマガジンなどで広く周知し、社会貢献活動に対する社員の意識向上につなげています。

2014年度「社会貢献活動社長特別賞」

震災復興と環境保全に取り組む「巣箱作り体験教室」

2011年の東日本大震災後、同年5月から地域の幼稚園児・保育園児および小学生を対象に、環境学習の一環として「巣箱作り体験教室」を開催しています。紙芝居などを使い、積水ハウスグループのCSR・環境活動について、子どもたちにもわかりやすく説明。取り組みに対する共感を得るとともに、日々の暮らしの中で自然とのふれあいを楽しむきっかけを提供しています。また、積水ハウスを新築いただいたお客様にもお引き渡し時に巣箱を贈っています。参加した子どもたち、保護者や教員の方々、お客様などの口コミで徐々に活動の輪が広がり、開催エリアも拡大しています。巣箱の材料は、被災した岩手県宮古市の材木店から間伐材を取り寄せており、被災地の復興にも貢献しています。

（岩手支店・秋田営業所「巣箱作り体験教室」実行委員会）



社員手製の紙芝居を使って、生物多様性保全などの取り組みを楽しく紹介



親子で巣箱作りにチャレンジ

「エコ・ファーストの約束」と進捗

当社は2008年6月に環境省から「エコ・ファースト企業」として認定を受けました。2012年には大きな枠組みはそのままに「エコ・ファーストの約束」を更新。2014年度も約束の実現に向けて積極的に取り組みました。

「エコ・ファーストの約束」(更新書)※2012年3月更新

当社は2008年6月に環境省から「エコ・ファースト企業」として認定を受け、その後、着実に取り組みを進めてきました。2012年3月には、社会情勢の変化や取り組みの進捗を反映し、「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」という大きな枠組みはそのままに「エコ・ファーストの約束」を更新しました。



拡大表示 

2014年度の主な取り組み

1. 家庭部門および事業活動に伴うCO₂排出量削減を積極的に推進します



ネット・ゼロ・エネルギー住宅「グリーンファーストゼロ」の拡販



賃貸住宅「シャーマゾン」への太陽光発電システム搭載や既築住宅の断熱リフォーム工事の推進



全国5工場で合計設置容量6.7MWのメガソーラー稼働

2. 生態系ネットワークの復活を積極的に推進します



「5本の樹」計画の推進



緑化の専門家「グリーンエキスパート」の養成



「木材調達ガイドライン」の運用

3. 資源循環の取り組みを徹底的に推進します



次世代型ゼロエミッションシステムの運用



「長期優良住宅」認定取得の推進



優良ストック住宅(スムストック)の普及推進

環境省が展開する気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同



エコ・ファースト推進協議会の総会で石原環境大臣(一番左)に説明をする当社和田会長(右から二人目)



「グリーンファースト」で、
低炭素社会へ。

気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。

「Fun to Share」は、2014年3月26日に環境省が展開を開始した、豊かな低炭素社会の実現を目指すプロジェクトです。日本全国、各地域に存在する豊かな低炭素社会づくりにつながる「情報・技術・知恵」を企業・団体、地域、国民一人ひとりがつながってみんなでシェアし、連鎖的に広げていくことで、世界に誇れる日本初の「ライフスタイル・イノベーション」を起こしていくことを目指したキャンペーンです。

2014年4月14日に開催されたエコ・ファースト推進協議会の総会の場で、当社和田会長から石原環境大臣に「Fun to Share」へ当社も賛同することを宣言しました。

■ 外部イニシアティブ等への加入

[エコ・ファースト推進協議会](#) 

[企業と生物多様性イニシアティブ](#) 

[サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク](#) 

[日本サステナブル建築協会](#) 

[エコネットコンソーシアム](#) 

他

【関連項目】

> [フェアウッド調達](#)

> [「5本の樹」いきもの調査](#)

> [品確法と長期優良住宅](#)

> [優良ストック住宅流通](#)

「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加

2014年4月から「エコ・ファースト推進協議会」の議長会社となり、環境先進企業を牽引していく立場となりました。環境省や他の「エコ・ファースト企業」と連携し、環境トップランナー企業群の環境保全活動の一層の充実・強化を推進します。

「エコ・ファースト推進協議会」の第3代議長会社に

2009年12月9日、環境省から環境先進企業として認定されている「エコ・ファースト企業」が、自主的に運営・組織する「エコ・ファースト推進協議会」が設立されました。かねて環境大臣に個別に宣言している「エコ・ファーストの約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動のさらなる充実強化等を「エコ・ファースト企業」が連携して強力に推進していくことが設立の主目的であり、2015年2月1日時点の加盟社数は37社です。

2014年4月からは「エコ・ファースト推進協議会」の第3代議長会社（議長：当社会長 和田勇）となり、環境先進企業を牽引していく立場となりました。国民の環境意識向上にも寄与すべく、環境省や他の「エコ・ファースト企業」と連携し、協議会活動に取り組んでいます。



望月環境大臣(右)と当社会長

第5回「エコとわざ」コンクールを開催

「エコ・ファースト推進協議会」は、環境省の後援、全国小中学校環境教育研究会の協力を得て、6月1日から9月9日まで、全国の小中学生から創作ことわざ「エコとわざ」を募集しました(2014年で5回目)。

2014年は「国連ESD※の10年」の最終年。11月には名古屋市でESDユネスコ世界会議が開催されることなどから、「未来の地球環境を守るために何をすべきか」を考える機会を子どもたちや一般消費者に提供し、国民の環境意識の啓発に寄与したいと考え、本コンクールのテーマに掲げました。

応募作品1,299点(過去最高)を審査委員会で厳正に審査した結果、最優秀賞の「環境大臣賞」をはじめ、加盟企業賞の一つとして「積水ハウス賞」を表彰しました。



「エコとわざ」積水ハウス賞作品
(名古屋市立藤が丘小学校5年 小林 さくら さん)
「大好きな おばあちゃんは エコ先生」

※ Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)

「エコ・ファースト 環境メッセージEXPO2014」を開催

10月28日(木)、エコ・ファースト推進協議会加盟企業各社の環境活動をさらに社会に浸透させるとともに、エコ・ファースト制度の認知度向上を目指して、「エコ・ファースト 環境メッセージEXPO2014」を開催しました。本イベントの開催は2012年に引き続き、2回目となります。

加盟企業の環境活動の担当者が、自社の環境活動でいま最もアピールしたい取り組みを「13文字程度のメッセージ」にまとめ、そのメッセージに込めた想いを3分半で環境に関心のある一般の方々や学生、約200人に向けてプレゼンテーション。来場者投票による「環境大臣賞」や、有識者で構成された審査委員*による「審査員特別賞」、学生が共感した取り組みを表彰する「ユース共感賞」が授与されました。当社は「住まい手の笑顔育む命の一千万本」をメッセージに掲げ、環境推進部部長 佐々木正顕がプレゼンテーションし、「審査員特別賞」を受賞しました。

* 審査委員長:原田 勝広氏(明治学院大学教授)、審査委員:池原 庸介氏(WWFジャパン自然保護室 気候変動エネルギーグループリーダー)、宮腰 義仁氏(国際青年環境NGO A SEED JAPAN事務局長)、森 摂氏(「オルタナ」編集長)



二列目右から4人目が当社環境推進部部長 佐々木正顕

関西本社のエコ・ファースト企業が「エコ・ファーストin関西」を組織し、活動中

2013年1月から関西に本社を置くエコ・ファースト企業9社(クボタ、三洋商事、滋賀銀行、スーパーホテル、住友ゴム工業、ダイキン工業、ノーリツ、リマテック、積水ハウス)が「エコ・ファーストin関西」を立ち上げ、活動しています。3か月に一度の情報交換会のほか、琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア活動を合同で実施するなど、「エコ・ファースト企業」のネットワークを拡げながら環境活動や事業活動でのコラボの可能性を探っています。

第2回 琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア活動(9月6日)

琵琶湖では、ヨシ群落の減少や外来魚増殖の影響で、昔から生息していたニゴロブナやホンモロコなどの魚が激減し、貴重な生態系が乱れています。関西の水源である琵琶湖で起きている問題を一人でも多くの方に理解していただくことを目的に実施。9社の社員とその家族241人(当社から43人)が参加し、803匹の外来魚を釣り上げました。

※第1回(2013年9月7日)は197人(当社41人)が参加し、釣果581匹



【関連項目】

> [「エコ・ファースト推進協議会」ホームページ](#) 

SRIインデックスへの組み入れ

SRIインデックスとは、企業の財務面のほか、環境面や社会面なども重要な投資判断とする社会的責任投資(SRI)の指標のことです。積水ハウスグループの積極的なCSR活動は、市場において高い評価を受け、2015年1月末時点で以下のSRI関連インデックスに組み入れられています。

- 「FTSE4Good Global Index指数」「FTSE4Good Japan Index 指数」
「Global Equity Index Series (GEIS)」「FTSE All World Index 指数」
- 「モーニングスター社会的責任投資株価指数」

また、2013年および2015年には、それぞれ東京証券取引所・経済産業省が女性活躍推進をテーマに抽出した「なでしこ銘柄2013」「なでしこ銘柄2015」に選定されました。

2014年度 社外からの主な評価

環境

◆「グランフロント大阪」

2014年3月 CASBEE 大阪 OF THE YEAR 商業施設その他部門賞

【主催：大阪市】

※事業者12社、設計者の共同受賞

◆「新梅田シティ『新・里山』『希望の壁』」

2014年10月

緑の都市賞

内閣総理大臣賞

【主催：公益財団法人都市緑化機構】



◆(仮称)RICウエストコート7番街2期新築工事(AB工区)
「大規模なマンション現場における発注者と連携した3R活動・
ゼロエミッションへの挑戦」

2014年10月

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 国土交通大臣賞

【主催：リデュース・リユース・リサイクル推進協議会】

※株式会社熊谷組との共同受賞

◆「ザ・リッツ・カールトン京都」

2014年12月

京都市環境配慮建築物顕彰制度「京(みやこ)環境配慮建築物」

優秀賞 一般建築物新築部門 【主催：京都市】

◆「グリーンファースト ゼロ」

2015年1月

省エネ大賞 製品・ビジネスモデル部門

審査委員会特別賞

【主催：一般財団法人省エネルギーセンター】



まちづくり・景観ほか

◆オーストラリア・シドニーの複合開発 「セントラルパーク」プロジェクト 「One Central Park」棟

2014年5月 Emporis Skyscraper Award

【主催:Emporis】

2014年8月

豪州都市開発協会賞(超高層ビル部門/デザイン&イノベーション部門)
【主催:Urban Development Institute of Australia(豪州都市開発協会)】

2014年11月

Best Tall Building Worldwide(世界最高の高層ビル)

【主催:Council on Tall Buildings and Urban Habitat(高層ビル・都市居住協議会)】

2015年3月

MIPIM Awards 2015 Best Innovative Green Building

【主催:MIPIM(不動産プロフェッショナル国際マーケット会議)】

※フレイザーズ・センターポイント・リミテッドとの共同開発事業



◆「梅田スカイビル(新梅田シティ)」

2014年8月 生きた建築ミュージアム・大阪セレクション

【主催:大阪市】

◆「グランドメゾン萩の宮」

2014年8月 花と緑のまちづくり賞

【主催:公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会】

◆「ザ・リッツ・カールトン京都」

2014年10月

Reggie Shiu Development of the Year
(最優秀賞)

【主催:アジア・パシフィック・ホテル投資会議】



◆「メゾンマスト すわ町」

2014年12月 北上市景観賞 【主催:岩手県北上市】

◆「グランフロント大阪」

2014年12月

大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞) 大阪府知事賞

【主催:大阪府、大阪市、公益社団法人大阪府建築士会、
一般社団法人大阪府建築士事務所協会、

公益社団法人日本建築家協会近畿支部、一般社団法人日本建築協会】

※事業者12社、設計者、施工者の共同受賞

◆「グランフロント大阪オーナーズタワー」

2014年12月 大阪市ハウジングデザイン賞 【主催:大阪市】

※事業者12社、設計者、施工者の共同受賞

商品・技術ほか

◆「音と共に暮らす～防犯・防音に配慮したピアノ室のある家～」

2014年2月 防犯住宅コンテスト 防犯住宅大賞 愛知県知事賞

【主催:愛知県警察本部、愛知県】

◆企業広告「家に帰れば、積水ハウス。」シリーズ

2014年10月

ビジネス広告大賞 シリーズ広告部門 銅賞

【主催:フジサンケイビジネスアイ】

◆住ムフムラボ「対話のある家」

2014年11月 IAUDアワード2014

IAUDアワード 住宅・建築部門

【主催:一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会】

※ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンとの共同受賞



キッズデザイン賞

2014年7月

優秀賞 経済産業大臣賞(子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門)

◆子どもの生きる力を育むまち 子育て世帯応援タウン ～ニッケガーデンコート花水木～

優秀賞 消費者担当大臣賞(未来を担う消費者デザイン部門)

◆子どもの生きる力をはぐくむ 「弁当の日」応援プロジェクト

※「弁当の日」応援プロジェクトとして応募

(事務局:株式会社共同通信社、
参加:積水ハウス株式会社、キッコーマン株式会社、
クリナップ株式会社、住友生命保険相互会社、
全国農業協同組合連合会、東京ガス株式会社、
ハウス食品グループ本社株式会社、
はごろもフーズ株式会社)



奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞(復興支援デザイン部門)

◆震災で得た教訓を生かした 子どもと女性にやさしい「おりひめトイレ」

(子ども視点の安全安心デザイン 一般部門)

◆健やかな生活を実現する 空気環境配慮仕様「エアキス」

(子どもの未来デザイン 感性・創造性部門)

◆子どもの生きる力を育む家「コドモイドコロ」の実践

(子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門)

◆安全安心で楽しい子育ての分譲マンション: グランドメゾン/ライフスタイルオプション

【主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会】



グッドデザイン賞

2014年10月

グッドデザイン・未来づくりデザイン賞

◆再開発プロジェクト「Tomihisa Cross」 オープンディスカッションによる住宅企画「Tokyoイゴコチ論争」

※野村不動産株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社、阪急不動産株式会社との共同受賞

グッドデザイン賞

◆都市再開発におけるランドスケープデザイン 「御殿山プロジェクト」

※株式会社日建設計、大成建設株式会社との共同受賞

【主催:公益財団法人日本デザイン振興会】



CSR活動

◆梅田スカイビルにおける積水ハウスグループの献血活動

2014年7月 献血推進協力団体等に対する厚生労働大臣表彰

◆「サステナビリティレポート2014」

2015年2月

環境コミュニケーション大賞

環境報告書部門 審査委員会特別優秀賞

(第18回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞)

【主催:環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム】



◆積水ハウス株式会社

2015年3月

女性活躍推進企業として経済産業省・

東京証券取引所の「なでしこ銘柄2015」に選定

大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰 最優秀賞



住環境の質の向上を目指した団体活動及び提言活動

わが国の住宅レベルや、住環境の質の向上において、トップメーカーである当社の役割と責任は大きく、多くの業界団体にも所属して、一企業としてだけでなく、業界全体のためにもさまざまな活動を推進してきました。特に近年は、サステナブル社会構築と豊かな住生活の実現に向けて、「住生活基本法」の制定やその推進、「長期優良住宅普及促進法」の制定や展開において、立法、行政、経済界などでのあらゆる発言機会をとらえ、積極的に意見を発し、提言を続けてきました。

加えて、再生可能エネルギーの利用促進、長寿命住宅の建築促進による良質な住宅ストック確保などのインセンティブ施策や税制についても、積極的に提言。その結果、住宅エコポイント制度の復活、住宅取得にかかる各種減税措置の延長などが実現しました。

■ 主な所属団体(2015年1月現在)

一般社団法人 日本経済団体連合会

一般社団法人 経済同友会

一般社団法人 住宅生産団体連合会(副会長:当社会長兼CEO 和田 勇)

一般社団法人 プレハブ建築協会(会長:当社会長兼CEO 和田 勇)

公益社団法人 関西経済連合会(企業法制委員長:当社会長兼CEO 和田 勇)

特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会(会長:当社会長兼CEO 和田 勇)

一般社団法人 不動産協会

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

優良ストック住宅推進協議会(会長:当社会長兼CEO 和田 勇)

エコ・ファースト推進協議会(議長:当社会長兼CEO 和田 勇)

自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み

自然災害からの復旧・復興は、住まう人の生命や財産、暮らしを守る「住」に関連した事業に特化する、積水ハウスグループの社会的責任です

わが国は、地形・地質・気象などの自然的条件から台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっています。2014年も数多の自然災害に見舞われました。自然災害による被害を防ぐこと(防災)、軽減すること(減災)は、住まう人の生命や財産、暮らしを守る事業に特化した戦略を推進する積水ハウスグループにとって重要なテーマの一つと認識しています。その一方で、自然災害が発生した場合の被災者の安否・被害情報の確認や支援体制の確立などに、迅速に対応することも住宅メーカーとして必要と考えています。

【関連項目】

- > [東日本大震災からの復興に向けて](#)
- > [広島土砂災害からの復旧・復興](#)

東日本大震災からの復興に向けて

東日本大震災から4年が経過しました。積水ハウスグループは、地震発生直後から被災地のお客様を速やかにサポートし、その状況に合わせて、復旧・復興工事並びに、仮設住宅や災害公営住宅などの建設に取り組んできました。2014年10月時点でいまだ約9万人※が仮設住宅などで不自由な生活を強いられています。被災地の方々の生活基盤となる住まいを一日も早く建築し、お引き渡しをするため、グループの総力を挙げて復興に向けた取り組みを継続しています。

※ 出典：復興庁資料「復興の現状と課題」（2015年1月発表）

復興事業

東北復興開発事業部を中心に災害公営住宅事業を推進

応急仮設住宅の居住期限は自治体の判断により5年間への延長が可能となりましたが、退去後の住まいの確保が困難な方のための公的な賃貸住宅「災害公営住宅」の建設を急ぐ必要があり、当社はグループの総力を挙げて迅速かつ確実に進めています。

資材や労務費の高騰、職方の不足など、多くの課題がありました。全国から1日300人規模の支援体制により、着実に建設が進んでいます。

また、被災地では復興の遅れだけでなく、震災の風化や行政ごとの復興格差などが問題になっています。現実的に復興計画を推進するには、全国一律の復興モデルではなく、それぞれの地域の実情に合わせた復興モデルが必要です。今後とも安定供給、短工期、高品質だけでなく、見守りやコミュニティの配慮等の当社のまちづくりの思想を取り入れた、入居者に喜んでいただける災害公営住宅の供給に取り組んでいきます。

	落札実績	竣工実績
2012年度	4棟 26戸	-
2013年度	84棟 284戸	26戸
2014年度	124棟 201戸	209戸
合計	212棟 511戸	235戸



福島県新地町の災害公営住宅

VOICE

■ 積水ハウスのレベルの高さを実感

福島県新地町では、木造や鉄筋コンクリート造による災害公営住宅は資材の高騰や職人不足などの影響が大きいと考え、早期から軽量鉄骨造も選択肢の一つとして入札を実施しました。

私自身も東北工場にあるモデル棟を3回ほど見学し、積水ハウスのレベルの高さを実感しました。入居者の方々からは「以前住んでいた家よりも断熱性が高く快適」という声も届いています。

被災者の方々に少しでも早く安心して暮らしていただけるよう、町としても全力を尽くします。



福島県新地町役場
千葉 秀一 様

おりひめトイレ

「おりひめトイレ※」は仙台市と積水ハウスが、震災の教訓を生かして共同開発した女性や子どもに優しい仮設トイレです。被災地の声を聞いた上で、女性による女性のための商品開発として生み出されたものです。観光振興、女性の社会進出を後押しする重要なアイテムとして「おりひめトイレ」を位置付けており、建築現場で働く女性支援などにも貢献できるものと考えています。

※「おりひめトイレ」は「第8回キッズデザイン賞 奨励賞(キッズデザイン協議会会長賞)」を受賞

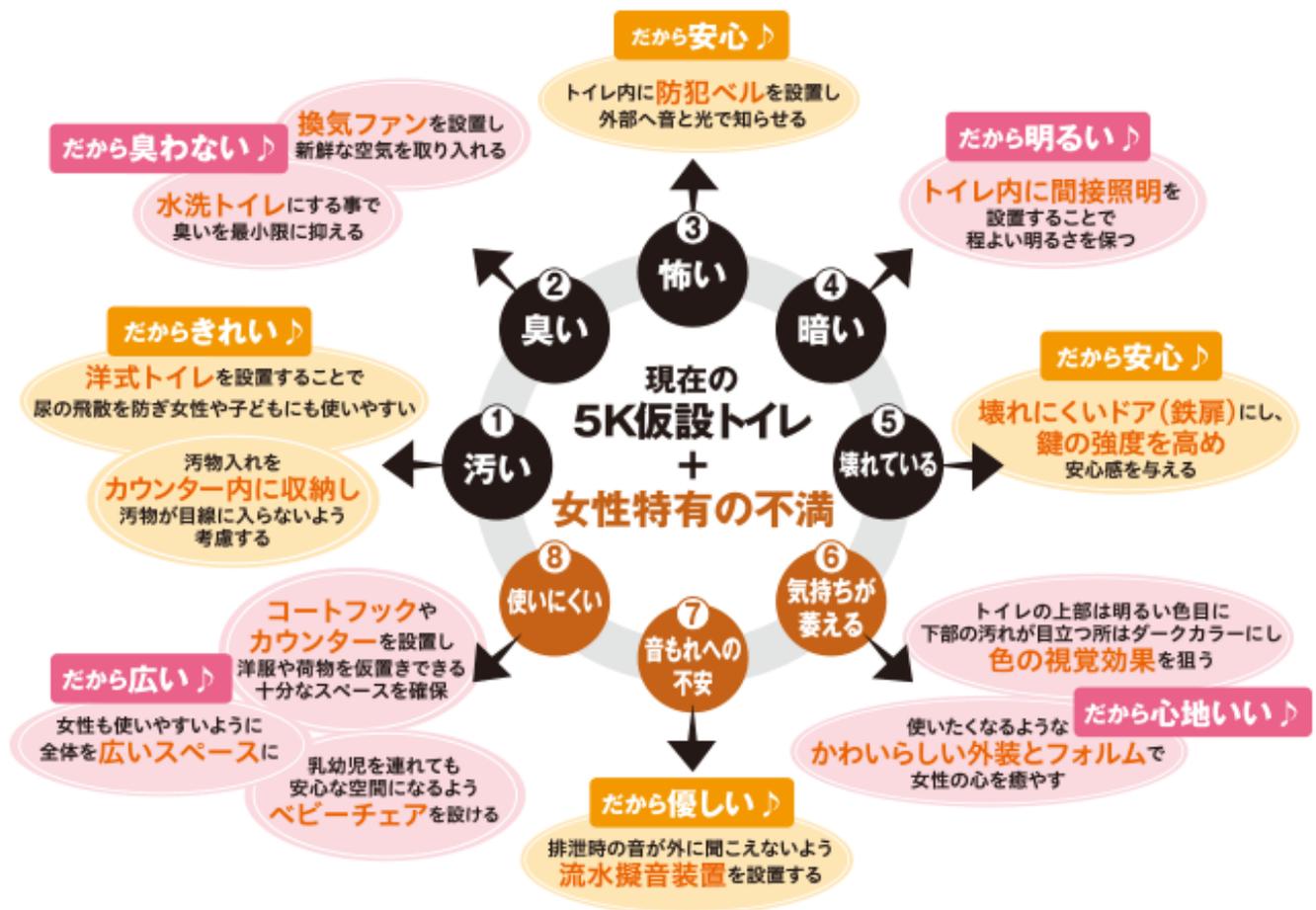


外観



内観

■ 開発コンセプト



総合職入社が被災地復興支援活動に参加

東日本大震災の翌年(2012年)から、総合職入社が交代で被災地復興支援活動に取り組んでいます。本活動は、被災地のニーズに基づく支援とともに当社の「企業理念」や「行動規範」に基づく相手本位の考え方・行動を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めることが目的です。

現地で活動するNPO法人と連携して、支援ニーズを聞きながら班ごとに自分たちでどんな支援ができるかを考えて行動。2014年は小学校や砂浜、住宅地の側溝などの清掃活動や、仮設住宅や集会所の清掃とともに入居者とのコミュニケーションを図りました。

2015年度の新入社員も4月から順次参加しています。

2012年度	347人
2013年度	566人
2014年度	460人
3年間の合計	1,373人



宮城県南三陸町の防災庁舎で黙とう



仮設住宅入居者との触れ合い「お茶っこ」

東北3県への社内旅行を推奨

東日本大震災の被災地で「住まう人の生命・財産・暮らしを守る」という住宅会社の使命を再認識するとともに、被災地域での消費行動による経済支援を目的に、東北3県(岩手県・宮城県・福島県)への社内旅行を開催する場合、会社が費用の一部を補助する制度の運用を継続しています。2015年1月末までに、延べ76事業所4482人が本制度を利用しました。

梅田スカイビル(本社)で「企業マルシェ」開催

積水ハウスグループは、東日本大震災で被害を受けた地域の企業が抱えている課題を解決するために、大手企業等の経営資源を被災地域の企業と効果的につなぐ「地域復興マッチング『結の場』」(主催:復興庁)に積極的に参加しています。その一環として、2014年11月に本社で被災地域の企業の商品を購入し支援する即売会「企業マルシェ」を開催しました。その他にも、当社が主催する販促イベントに東北物産展としてブース出展いただき、来場者が購入する機会なども設けています。



「企業マルシェ」を開催

【関連項目】

- > [自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み](#)
- > [広島土砂災害からの復旧・復興](#)

広島土砂災害からの復旧・復興

2014年8月には、短時間での局地的豪雨により、広島市の安佐南区、安佐北区などで250棟以上の家屋を全半壊する土砂災害が発生しました。その際にも現地でも速やかに初動体制を整え、対応しました。

VOICE

■ 社員一人ひとりにお客様第一のDNAが根付いています

土砂災害当日の朝のうちに出勤できる社員が営業本部に集まり、対策本部を立ち上げました。電車も道路も寸断され、現場に近づけませんでした。手分けしてオーナー様の安否や被害状況を確認するために電話をかけ続けました。オーナー様情報がきちんと管理されているため、翌21日には現場確認にも着手できました。

翌々日からは、被災現場から徒歩圏内にある広島カスタマーズセンターに対策本部を移し、グループ社員総出で現場確認を実施。併せて敷地内の泥かきや清掃作業、荷物運びなどのお手伝いをして大変喜ばれました。社員一人ひとりに根付くお客様第一のDNA、当社に根付くグループ連携力を背景にスムーズな安否確認・復旧支援が行えました。引き続き、早期の復旧・地域の復興を目指して取り組んでいきます。



中国営業本部 技術部長
三浦 康司

【関連項目】

- > [自然災害からの復旧・復興に向けた取り組み](#)
- > [東日本大震災からの復興に向けて](#)

「防災未来工場化計画」の取り組み

行政・地域住民との連携を強化、国連防災世界会議の公式視察先にも指定

当社は今後発生するおそれのある災害への対応として、全国にある工場を拠点とする「防災未来工場化計画」を2014年5月に発表しました。

その第1弾として、10月に東北工場において、宮城県色麻町との官民連携による「総合防災訓練」が行われました。この訓練を通じ、地域の防災力を高めるとともに、当社の取り組みを理解いただく機会となりました。

また、2015年3月14日～18日に開催された「第3回国連防災世界会議」では、東北工場がスタディツアー（被災地公式視察）の会場の指定を受け、30の国や地域、自治体、メディアなどから約200人が訪れ、全26ツアーの中で最多となりました。

平時はエコで、災害時はタフに。オーナー様や地域の方々の暮らしをサポート

2013年9月、東北工場が所在する色麻町と「災害時における避難所等施設利用に関する協定」を締結しました。この協定は、工場の敷地を避難場所、「住まいの夢工場」を避難所として使用するほか、東北工場の保有または調達可能な物資を色麻町の方々に提供するというものです。防災備蓄品の確保や、色麻町関係組織との協議への参画など、地域全体の被災者支援拠点となるべく、コミュニティへの働きかけも行っています。また、東北工場では既に設置済みの太陽光発電に加え、このたび新たに大型蓄電池、ガスエンジン発電機、プラグインハイブリッド自動車、エネルギー管理システム（FEMS）を導入し、スマートエネルギーシステムを構築しました。これにより、平常時の工場で使用する電力のピークカットを実現するとともに、災害時には蓄電池、発電機、太陽光発電の3電源から避難所となる「住まいの夢工場」へ電力を供給し、迅速な初動対応によりオーナー様や地域の方々の暮らしをサポートします。

2014年10月に行われた「総合防災訓練」は、宮城県沖を震源とする大地震が発生し、東北工場がある色麻町でも震度6弱を観測したと想定。色麻町全体では当社を含む19団体2037人が参加し、東北工場では433人が訓練を行いました。東北工場には、避難所だけでなく、色麻町災害対策本部も設置され、町内全域をカバーする無線情報ネットワークを用いた訓練や、消火訓練、防災ヘリ救出訓練、倒壊建物救出訓練なども実施するという大規模な訓練となりました。



宮城県防災航空隊によるヘリコプターでの負傷者搬送訓練



避難所でのプライバシー確保に配慮した簡易間仕切り



工場内の管理棟に設置された色麻町緊急対策本部



「住まいの夢工場」を住民の避難所として開放



非常食試食コーナー



地元消防団、積水ハウス自衛消防隊も参加した放水訓練

未来へつなぐ官民連携の防災力を世界へ発信

住宅業界で唯一スタディツアーの視察先に選定された当社と色麻町の取り組みには、世界30カ国約200人の方々に公式視察をしていただき、官民連携の防災の取り組みを全世界に発信する機会となりました。特に、阪神・淡路大震災以来培ってきた防災の技術によって、命を守るシェルターでもある住宅の重要な役割や、東日本大震災以降の「グリーンファースト戦略」や「スマートコモンシティ」など防災に強い住まいづくり・まちづくりを、世界の方々に認知していただくことができました。

防災は住民と行政、企業とのかかわりが大切です。色麻町で東北工場が操業して18年が経過しますが、防災協定の締結、さらには陶版外壁「ベルバーン」製造ラインの新設による約100人の雇用の創出にも取り組んできました。今後も官民連携の取り組みを一層強めることはもちろん、暮らしや建築に携わる企業として被災地に寄り添って役立ちたいと考えています。



250人が7日間生活できる避難所を見学



世界初3電池連動制御の「グリーンファーストハイブリッド」の説明



餅つき体験と出来立て餅のふるまいでおもてなし

災害支援拠点のあり方について行政、NPO、メディア、従業員で対話

今回のスタディツアー期間中の3月16日、東北工場で「災害支援拠点のあり方を考える～災害に強い“まち”を目指したダイアログ～」と題した意見交換会を開催。被災地で避難所の運営に携わったNPO関係者をはじめ色麻町職員、メディア関係者、そして当社従業員などが参加し、活発な意見交換を行いました。このセッションで講師を務めた日本財団の青柳光昌さん、大分県社会福祉協議会の村野淳子さんは、東日本大震災でのボランティア支援を通じ、ハードだけではなく、避難所運営での女性や弱者への配慮などで課題があったことを指摘されました。地域の避難所として当社ができること、期待されていることを改めて考える機会となりました。



ダイアログの様子

■ 町と民間企業の連携は住民にとって大きな安心に

東日本大震災以降、町民の防災への意識の高まりに応えるため、日本初の高速無線通信「地域WiMAX」を活用した「災害に強い情報連携システム」を導入。災害時に一般の通信手段が途絶えても、国や県からの多様な防災・災害情報を町に集約して、住民や公共施設へ一括配信するというものです。

官民連携の「総合防災訓練」では、指定避難所とした積水ハウスの東北工場に対し、参加した住民から「エネルギーや食料が確保された避難所で、いざという時の居場所ができて安心」という声を聞くことができました。防災・減災には、こうしたハード面の備えはもちろん、助け合いのコミュニティといったソフト面の備えも大切です。今後も、行政と企業、地域の方々と共働り、災害に強い町にしていきます。



色麻町 町長 伊藤 拓哉氏